評価規準（第１学年及び第２学年「F武道　ア　柔道」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・武道は対人的な技能を基にした運動で，我が国固有の文化であることついて，言ったり書き出したりしている。  ・武道には技能の習得を通して，人間形成を図るという伝統的な考え方があることについて，言ったり書き出したりしている。  ・武道の技には名称があり，それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。  ・武道はそれぞれの種目で，主として高まる体力要素が異なることについて，学習した具体例を挙げている。  ・試合の行い方には， ごく簡易な試合におけるルール，審判及び運営の仕方があることについて，学習した具体例を挙げている。 | ○技能  【基本動作】  ・姿勢と組み方では，相手の動きに応じやすい自然体で組むことができる。  ・崩しでは，相手の動きに応じて相手の体勢を不安定にし，技をかけやすい状態をつくることができる。  ・進退動作では，相手の動きに応じたすり足，歩み足及び継ぎ足で，体の移動をすることができる。  【受け身】  ・横受け身では，体を横に向け下側の脚を前方に，上側の脚を後方にして，両脚と一方の腕全体で畳を強くたたくことができる。  ・後ろ受け身では，あごを引き，頭をあげ，両方の腕全体で畳を強くたたくことができる。  ・前回り受け身では，前方へ体を回転させ，背中側面が畳に着く瞬間に，片方の腕と両脚で畳を強くたたくことができる。  【投げ技】  ・取は膝車をかけて投げ，受は受け身をとることができる。  ・取は支え釣り込み足をかけて投げ，受は受け身をとることができる。  ・取は体落としをかけて投げ，受は受け身をとることができる。  ・取は大腰をかけて投げ，受は受け身をとることができる。  ・取は大外刈りをかけて投げ，受は受け身をとることができる。  【固め技】  ・取は，「抑え込みの条件」を満たして相手を抑えることができる。  ・取はけさ固めや横四方固めで相手を抑えることができる。  ・受はけさ固めや横四方固めで抑えられた状態から，相手を体側や頭方向に返すことができる。 | ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。  ・提供された練習方法から，自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。  ・学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。  ・練習の場面で，仲間の伝統的な所作等のよい取組を見付け，理由を添えて他者に伝えている。  ・体力や技能の程度，性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見付け，仲間に伝えている。 | ・武道の学習に積極的に取り組もうとしている。  ・相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。  ・用具等の準備や後片付け，審判などの分担した役割を果たそうとしている。  ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。  ・禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。 |

評価規準（第３学年「F武道　ア　柔道」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・武道を学習することは，自国の文化に誇りをもつことや，国際社会で生きていく上で有意義であることについて，言ったり書き出したりしている。  ・武道には，各種目で用いられる技の名称や武道特有の運動観察の方法である見取り稽古の仕方があることについて，言ったり書き出したりしている。  ・武道では，攻防に必要な補助運動や部分練習を繰り返したり，継続して行ったりすることで，結果として体力を高めることができることについて，言ったり書き出したりしている。  ・試合の行い方には，簡易な試合におけるルール，審判及び運営の仕方があることについて，学習した具体例を挙げている。 | ○技能  【基本動作】  ・姿勢と組み方では， 相手の動きの変化に応じやすい自然体で組むことができる。  ・崩しでは，相手の動きの変化に応じて相手の体勢を不安定にし，技をかけやすい状態をつくることができる。  ・進退動作では，相手の動きの変化に応じたすり足，歩み足，継ぎ足で，体の移動をすることができる。  【受け身】  ・相手の投げ技に応じて横受け身，後ろ受け身，前回り受け身をとることができる。  【投げ技】  ・取は小内刈りをかけて投げ，受は受け身をとることができる。  ・取は大内刈りをかけて投げ，受は受け身をとることができる。  ・取は釣り込み腰をかけて投げ，受は受け身をとることができる。  ・取は背負い投げをかけて投げ，受は受け身をとることができる。  【 投げ技の連絡】  〈二つの技を同じ方向にかける技の連絡〉  ・大内刈りから大外刈りへ連絡することができる。  〈二つの技を違う方向にかける技の連絡〉  ・釣り込み腰から大内刈りへ連絡することができる。  ・大内刈りから背負い投げへ連絡することができる。  【固め技の連絡】  ・取は相手の動きの変化に応じながら，けさ固め，横四方固め，上四方固めの連絡を行うことができる。  ・受はけさ固め，横四方固め，上四方固めで抑えられた状態から，相手の動きの変化に応じながら， 相手を体側や頭方向に返すことによって逃げることができる。  ・相手がうつぶせのとき，相手を仰向けに返して抑え込みに入ることができる。 | ・見取り稽古などから，合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して，練習の成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。  ・自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について，自己の考えを伝えている。  ・選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。  ・健康や安全を確保するために，体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。  ・相手を尊重するなどの伝統的な行動をする場面で，よりよい所作について，自己や仲間の活動を振り返っている。  ・体力や技能の程度，性別等の違いに配慮して，仲間とともに武道を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。  ・武道の学習成果を踏まえて，自己に適した「する，みる，支える，知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 | ・武道の学習に自主的に取り組もうとしている。  ・相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。  ・仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとしている。  ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。  ・健康・安全を確保している。 |

評価規準（第１学年及び第２学年「F武道　イ　剣道」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・武道は対人的な技能を基にした運動で，我が国固有の文化であることついて，言ったり書き出したりしている。  ・武道には技能の習得を通して，人間形成を図るという伝統的な考え方があることついて，言ったり書き出したりしている。  ・武道の技には名称があり，それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。  ・武道はそれぞれの種目で，主として高まる体力要素が異なることについて，学習した具体例を挙げている。  ・試合の行い方には， ごく簡易な試合におけるルール，審判及び運営の仕方があることについて，学習した具体例を挙げている。 | ○技能  【基本動作】  ・構えでは，相手の動きに応じて自然体で中段に構えることができる。  ・体さばきでは，相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができる。  ・基本の打突の仕方と受け方では，中段の構えから体さばきを使って，面  や胴（右）や小手（右）の部位を打っ  たり受けたりすることができる。  【しかけ技】  〈二段の技〉  ・最初の小手打ちに相手が対応したとき，隙ができた面を打つことができる。（小手—面）  ・最初の面打ちに相手が対応したとき，隙ができた胴を打つことができる。（面—胴）  〈引き技〉  ・相手と接近した状態にあるとき，隙ができた胴を退きながら打つことができる。（引き胴）  【応じ技】  〈抜き技〉  ・相手が面を打つとき，体をかわして隙ができた胴を打つことができる。（面抜き胴） | ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。  ・提供された練習方法から，自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。  ・学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。  ・練習の場面で，仲間の伝統的な所作等のよい取組を見付け，理由を添えて他者に伝えている。  ・体力や技能の程度，性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見付け，仲間に伝えている。 | ・武道の学習に積極的に取り組もうとしている。  ・相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。  ・用具等の準備や後片付け，審判などの分担した役割を果たそうとしている。  ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。  ・禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。 |

評価規準（第３学年「F武道　イ　剣道」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・武道を学習することは，自国の文化に誇りをもつことや， 国際社会で生きていく上で有意義であることについて，学習した具体例を挙げている。  ・武道には，各種目で用いられる技の名称や武道特有の運動観察の方法である見取り稽古の仕方があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・武道では，攻防に必要な補助運動や部分練習を繰り返したり，継続して行ったりすることで，結果として体力を高めることができることについて，言ったり書き出したりしている。  ・試合の行い方には，簡易な試合におけるルール，審判及び運営の仕方があること学習した具体例を挙げている。 | ○技能  【基本動作】  ・構えでは，相手の動きの　変化に応じた自然体で中段に構えることができる。  ・体さばきでは，相手の動　きの変化に応じて体の移動を行うことができる。  ・基本の打突の仕方と受け方では，体さばきや竹刀操作を用いて打ったり，応じ技へ発展するよう受けたりすることができる。  【しかけ技】  〈二段の技〉  ・最初の面打ちに相手が対応したとき，隙ができた面を打つことができる。（面—面）  〈引き技〉  ・相手と接近した状態にあるとき，隙ができた面を退きながら打つことができる。（引き面）  〈出ばな技〉  ・相手が打とうとして竹刀の先が上下に動いたとき，隙ができた面を打つことができる。（出ばな面）  〈払い技〉  ・相手の竹刀を払ったとき， 隙ができた面を打つことができる。（払い面）  ○応じ技  〈抜き技〉  ・相手が小手を打つとき，　体をかわしたり，竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打つことができる。（小手抜き面） | ・見取り稽古などから，合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して，練習の成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。  ・自己や仲間の技術　的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について，自己の考えを伝えている。  ・選択した運動に必　要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。  ・健康や安全を確保　するために，体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。  ・相手を尊重するな　どの伝統的な行動をする場面で，よりよい所作について，自己や仲間の活動を振り返っている。  ・体力や技能の程度，性別等の違いに配慮して，仲間とともに武道を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。  ・武道の学習成果を　踏まえて，自己に適した「する，みる，支える，知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 | ・武道の学習に自主的に取り組もうとしている。  ・相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。  ・仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとしている。  ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。  ・健康・安全を確保している。 |

評価規準（第１学年及び第２学年「F武道　ウ　相撲」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・武道は対人的な技能を基にした運動で，我が国固有の文化であることついて，言ったり書き出したりしている。  ・武道には技能の習得を通して，人間形成を図るという伝統的な考え方があることついて，言ったり書き出したりしている。  ・武道の技には名称があり，それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。  ・武道はそれぞれの種目で，主として高まる体力要素が異なることについて，学習した具体例を挙げている。  ・試合の行い方には， ごく簡易な試合におけるルール，審判及び運営の仕方があることについて，学習した具体例を挙げている。 | ○技能  【基本動作】  ・蹲踞姿勢と塵浄水では，正しい姿勢や形をとることができる。  ・四股，腰割りでは，重心を低くした動きをすることができる。  ・中腰の構えでは，重心を低くした姿勢をとることができる。  ・運び足では，低い重心を維持して，すり足で移動することができる。  ・仕切りからの立ち合いでは，相手と動きを合わせることができる。  【受け身】  ・相手の動きや技に応じて受け身をとることができる。  【押し，寄り，前さばき】  ・相手の両脇の下を押すことができる。（押し）  ・相手のまわしを取って引きつけて寄ることができる。（寄り）  ・押しから体を開き相手の攻めの方向にいなすことができる。（いなし）  【投げ技】  ・寄りから体を開き側方に出すように投げることができる。これに対し受け身をとることができる。（出し投げ—受け身） | ・提示された動きの　ポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。  ・提供された練習方　法から，自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。  ・学習した安全上の　留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。  ・練習の場面で，仲　間の伝統的な所作等のよい取組を見付け，理由を添えて他者に伝えている。  ・体力や技能の程度，性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための練習や簡易な試合を行う方法を見付け，仲間に伝えている。 | ・武道の学習に積極的に取り組もうとしている。  ・相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。  ・用具等の準備や後片付け，審判などの分担した役割を果たそうとしている。  ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。  ・禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。 |

評価規準（第３学年「F武道　ウ　相撲」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・武道を学習することは，自国の文化に誇りをもつことや， 国際社会で生きていく上で有意義であることについて，学習した具体例を挙げている。  ・武道には，各種目で用いられる技の名称や武道特有の運動観察の方法である見取り稽古の仕方があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・武道では，攻防に必要な補助運動や部分練習を繰り返したり，継続して行ったりすることで，結果として体力を高めることができることについて，言ったり書き出したりしている。  ・試合の行い方には，簡易な試合におけるルール，審判及び運営の仕方があること学習した具体例を挙げている。 | ○技能  【基本動作】  ・蹲踞姿勢と塵浄水では，正しく安定した姿勢や形をとることができる。  ・四股，腰割りでは，重心を低くして安定した動きをすることができる。  ・中腰の構えでは，重心を低くし安定した姿勢をとることができる。  ・運び足では，低い重心を維持し安定して，すり足で移動することができる。  ・仕切りからの立ち合いでは，相手と動きを合わせて一連の動作で行うことができる。  【受け身】  ・相手の動きや技に応じ，安定して受け身をとることができる。  【押し，寄り，前さばき】  ・相手の両脇の下や前まわしを取って押すことができる。これに対し体を開き，相手の攻めの方向にいなすことができる。（押し—いなし）  ・相手のまわしを取って引き付けることができる。これに対し相手の差し手を逆に下手に差し替えることができる。（寄り—巻き返し）  【投げ技】  ・寄りから上手で投げることができる。これに対し受け身を取ることができる。（上手投げ—受け身）  ・寄りから下手で投げることができる。これに対し受け身を取ることができる。（下手投げ—受け身）  ・体を開いて斜め下の方へ突き落とすことができる。これに対し受け身をとることができる。（突き落とし—受け身） | ・見取り稽古などから，合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して，練習の成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。  ・自己や仲間の技術　的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について，自己の考えを伝えている。  ・選択した運動に必　要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。  ・健康や安全を確保　するために，体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。  ・相手を尊重するな　どの伝統的な行動をする場面で，よりよい所作について，自己や仲間の活動を振り返っている。  ・体力や技能の程度，性別等の違いに配慮して，仲間とともに武道を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。  ・武道の学習成果を　踏まえて，自己に適した「する，みる，支える，知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 | ・武道の学習に自主的に取り組もうとしている。  ・相手を尊重し，伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。  ・仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとしている。  ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。  ・健康・安全を確保している。 |